



みんなで創った、SOLAN ソーラン2026

スポーツフェスティバルにお越しいただき、ありがとうございました。子どもたちの全力のソーラン節は、いかがだったでしょうか。後ろから子どもたちの演技を見ていて思わず、ウルウルしてしまうほど、感動あふれる力強い演技でした。演技が終わってすぐに、子どもたちには、「250点でした！」と声をかけてしまいました。それほど、私にとっては素晴らしいと感じるソーラン節でしたが、今回の取り組みには、学習としても大切な意味がいくつもありました。3つに分けてお伝えします。

1 みんなで全力だったからこそその迫力

一人ひとりが、真剣な表情で踊っていたかと思います。集団での表現は、自分だけがうまく踊れてもうまくいきません。一人ひとりの全力は、足し算ではなく掛け算で効いてきます。だからこそ、あの迫力が生まれました。

練習の中で、岩本先生が「全員がソーランリーダーになりました！」と伝えた日がありました。「やったー」と喜ぶ声上がり、最後に認定された子たちに駆け寄って声をかける姿がありました。

みんなで衣装を作り、リーダーバッジで教え合い、2026年の2年生にしかできないソーラン節を創ってきました。一人ではなく、みんなで取り組んだからこそその迫力だったと思います。

2 成功体験が、次の成功体験を呼ぶ

緊張する本番で、あれほど力を込めて踊れたのはなぜか。私は、「みんなで乗り越えてきた」という実感が支えていたのだと感じています。

思い返せば、野菜プロジェクトで自分たちの手で野菜を売り、協力して収穫祭まで開催しました。**あれができたのだから、今回もできる。**一つの成功体験が、次の挑戦へと子どもたちを押し出していきます。**これが「自分たちならできる」という自己効力感**です。

そして、この感覚を育てるのにとても有効なのが、他者からのフィードバックです。今回のソーラン節についても、ぜひご家庭で努力の過程をほめてあげてください。それが、次の挑戦を支える力になります。

3 目に見えないところで育ったもの

ここまでの過程を振り返ると、さまざまな姿がありました。

リーダーに認定されず、悔し涙を流した子。認定されて嬉し涙を流した子。家で何度も練習を重ねた子。休み時間も全力で踊っていた子。

こうした一つひとつの経験の中で、**粘り強さや、うまくいかないときに立て直す力**が育っています。点数には表れませんが、この先の学びを支える土台になるものです。

仲間と一つのことを真剣に創り上げること。支え合い、励まし合って取り組むこと。その手応えを、今回のソーラン節で感じてくれたらと思います。

ご家庭での練習から、健康面・メンタル面での支えまで、本当にありがとうございました。

